

資料1 正誤表

平成29年度第4回寒川町地域自立支援協議会

P1 (第1章 1. 計画策定の趣旨 (下から6行目)、表紙)

<正>「第1期寒川町障がい児福祉計画」

<誤>「第1期障がい児福祉計画」

P13 (第2章 1. 寒川町の現状 (2)障がい者数の推移 (下から4行目以降))

<正>

～95人で、そのうち、18歳以下が5人、19歳から64歳までの方が23人、65歳以上の方が67人の取得となっております。65歳以上の方が68.4%を占めており、～(略)

<誤>

～95名で、そのうち、18歳以下が5人、19歳から64歳までの方が23人、65歳以上の方が67人となっており、65歳以上の方が68.4%となっており、～(略)

P55 (第4章 2. 施策の展開 (6)雇用・就労 ⑥職場体験事業の充実と町内企業の障がい者雇用の推進)

<正>

～寒川総合図書館等公共施設での実習の実施や、寒川町役場での実習を検討していきます。

<誤>

～寒川総合図書館等寒川町役場での実習を実施していきます。

P65 (第5章 2. 障がい福祉サービスの種類と見込量 (1)訪問系サービス(上から5行目))

<正>

アンケートによると、居宅介護において現在『利用していない』38.8%の方に対し、『今後も利用の必要がない』と回答された方は15.6%に減少しています。(『わからない』が19.4%)。近年のサービス利用の伸びから考えても、今後もサービス利用は増加するもの～(略)

<誤>

アンケートによる利用意向の調査からも、サービス利用は増加するもの～(略)

P75 (第5章 2. 障がい福祉サービスの種類と見込量 (2)<8>短期入所(上から2行目))

<正>

アンケートによると、現在『利用していない』43.8%の方に対し、『今後も利用の必要がない』と回答された方は11.3%に減少しています。(『わからない』が25.6%)。今後必要と考えている方も含め、～(略)

<誤>

アンケート調査からも、～(略)

P77 (第5章 2. 障がい福祉サービスの種類と見込量 (3) <2> 共同生活援助(中段))

<正>

アンケートによると、現在『利用していない』41.9%の方に対し、『今後も利用の必要がない』と回答された方は13.1%に減少しています。(『わからない』が21.9%)。今後必要と考えている方も含め、～(略)

<誤>

アンケートの結果でも、～(略)

P79 (第5章 2. 障がい福祉サービスの種類と見込量 (4) <1> 計画相談支援(下段))

<正>

(略)～平成29年度の実数から毎年5名の増加を見込みます。

<誤>

(略)～平成29年度の実数から毎年7.7名の増加を見込みます。

P82 (第5章 2. 障がい福祉サービスの種類と見込量 (5) <1> 児童発達支援(中段))

<正>

(略)～アンケートによると現在『利用していない』29.2%の方に対し、『今後も利用の必要がない』と回答された方は12.5%に減少しています。(『わからない』が16.7%)。障がい児の増加や、今すぐではなくても、今後必要と考えている方も含めた利用意向を反映させ、～(略)

<誤>

(略)～障がい児の増加やアンケート調査による利用意向を反映させ、～(略)

P84 (第5章 2. 障がい福祉サービスの種類と見込量 (5) <3> 放課後等デイサービス(中段))

<正>

アンケートによると現在『利用していない』25.0%の方に対し、『今後も利用の必要がない』と回答された方は4.2%に減少しています。(『わからない』も4.2%)。障がい児の増加や、今後利用していきたいという意向が多いことから、利用実人数を～(略)

<誤>

障がい児の増加やアンケート調査による利用意向を反映させて、利用実人数を～(略)